

[1] 分子シミュレーション研究会会誌の書き方

分子大学 シミュレーション学部

分子太郎 bunshi@aaa.bbb.ccc

原子大学 シミュレーション学部

原子次郎 genshi@aaa.bbb.ccc

概要

数行程度（概要の部分は、1 段組）

(1 行あける)

キーワード：5 ～ 10 個程度（キーワードの部分は、1 段組）

(1 行あける)

1 はじめに

以下の注意事項に留意して、原稿を作成すること。

(1 行あける)

2 「アンサンブル」用原稿作成上の注意

2.1 標準形式

原稿は Microsoft Word, TeX 等を用いて作成し，図や写真等は原稿に張り込み一つのファイルとして完結させる．原稿の標準形式を表 1 に示す．

表 1: 原稿の標準形式

| | |
|--------|---|
| 用紙サイズ | A4 縦長 (210mm × 297mm), 横書き |
| 余白サイズ | 上余白 28mm, 下余白 20mm 左余白 20mm, 右余白 20mm |
| タイトル | 1 段組, 所属, 著者氏名, email を明記 |
| 本文 | 2 段組, 1 段 80mm, 段間隔余白 10mm 10 ポイント (10 × 0.3514mm) |
| 活字 | タイトル MS ゴシック体 所属, 著者氏名 MS ゴシック体 著者 email Arial 本文 MS 明朝体 見出し MS ゴシック体 英文字・数字 Times New Roman または Symbol |
| 1 行の字数 | 1 段あたり 23 文字程度 |
| 行送り | 15 ポイント (15 × 0.3514=5.271mm) 1 ページあたり 45 行 |

2.2 見出しなど

見出しはゴシック体を用い，大見出しは左寄せして前に 1 行空ける．中見出しは 2.2 などのように番号をつけ左寄せする．見出しの数字は半角とする．行の始めに，括弧やハイフン等がこないように禁則処理を行うこと．

2.3 句読点

句読点は，および を用い，，や は避けること．

2.4 図について

図中のフォントは本文中のフォントと同じものを用いること．図や表はなるべく上側か下側の隅に固めること．

2.5 参考文献について

2.5.1 番号の付け方

参考文献は本文中の該当する個所に [1], [1,3], [1-4] のように番号を入れて示す．

2.5.2 参考文献の引き方

著者名，誌名，巻，頁，年の順とする．毎号頁の改まる雑誌は巻-号数のようにして号数も入れる．著者名は，名前のイニシャル．名字，のように記述する．雑誌名の省略法は科学技術文献速報 (JICST) に準拠する．文献の表題は省略する．日本語の雑誌・書籍の場合は著者名・書名とも省略しない．

3 TeX で執筆する場合

TeX で原稿を執筆する場合はアンサンブル用のスタイルファイル ensemble.sty を使用すること.

```
\documentclass[twocolumn,10pt]{jarticle}
\usepackage[option]{ensemble}
```

option に指定できるコマンド一覧を表 2 に示す. 執筆する記事の内容 (著者表示の有無, 著者紹介の有無, 概要・キーワードの有無) にあわせて使い分けること. option を省略すると noauthor と同じになる. よく使用される amsmath, amssymb, cite, color, graphicx, here は ensemble.sty の中で読み込まれるため, \usepackage{...} を使用して定義する必要はない.

表 2: オプション一覧.

| option | 用途 |
|----------|------------------------|
| review | 研究紹介 (単著用) |
| reviewb | 研究紹介 (著者 2 人用) |
| intro | 研究以外の記事 (概要・キーワード無し) |
| introb | 研究以外の記事 (同上, 著者 2 人用) |
| report | 夏の学校等 (著者有, 著者紹介無し) |
| noauthor | 幹事会報告, 事務局連絡 (タイトル&本文) |

謝辞

〇〇氏に感謝します.

参考文献

- [1] 上田顕, 分子シミュレーションー古典系から量子系手法までー, 裳華房 (2003).
- [2] B. J. Alder and T. E. Wainwright, *J. Chem. Phys.*, **27**, 1208 (1957).
- [3] N. Metropolis, A. W. Rosenbluth, M. N. Rosenbluth, A. H. Teller and E. Teller, *J. Chem. Phys.*, **21**, 1087 (1953).
- [4] M. P. Allen and D. J. Tildesley, *Computer Simulation of Liquids*, Oxford University Press Inc., New York (1987).

著者紹介



分子太郎 (博士 (理学)): [経歴] 1980 年分子科学大学理工学研究科博士課程修了, 同年分子科学研究所に入所. 1990 年から現所属. [専門] 統計力学, 液体論. [趣味] 演劇鑑賞.

写真サイズは縦 35mm 横 25mm 程度.



原子次郎 (博士 (工学)): [経歴] 1985 年原子科学大学理工学研究科博士課程修了, 同年原子科学研究所に入所. 1995 年から現所属. [専門] 原子力工学 [趣味] 演劇鑑賞.

写真サイズは縦 35mm 横 25mm 程度.